令和６年度第１回徳島市立考古資料館協議会抄録

Ⅰ　日　時　　令和６年９月２６日（木）　１０：００～１１：３０
Ⅱ　場　所　　徳島市立考古資料館　研修室
Ⅲ　出席者　　協　議　会　中村会長・須藤副会長・安西委員・蔭山委員・菅原委員・板東委員・湯浅委員
　　教育委員会　岡田課長、北村課長補佐、平山管理係長、堤主査、板東主事、河田主事
　　考古資料館　北島館長、倉佐事務長、村田主任学芸員、大粟学芸員

Ⅳ　内　容

１　市民憲章唱和
２　自己紹介
３　あいさつ（岡田課長・中村会長）
４　議題
⑴　令和６年度　徳島市立考古資料館事業計画（資料１）
⑵　令和６年度　徳島市立考古資料館主要事業概要報告（資料２）
　　－令和６年４月１日から令和６年８月３１日まで－
⑶　その他

Ⅴ　主なご意見

令和６年度徳島市立考古資料館事業計画等に関して、各委員より様々なご意見をいただきました。主な内容は次のようなものでした。

（◇＝委員のご意見　◎＝考古資料館・社会教育課の回答）

◇　事業報告書の付随資料として体験学習等のアンケートなどをまとめた事業終了報告書が添付されていますが、イベント参加者の意見をまとめる中で良い面、悪い面を含め、資料館として注目する点、気付いた点などがあれば教えてください。

◎　まず、好古楽倶楽部についてですが、家族連れでの参加が多いのですが、最近は年配の方の参加も増えてきています。好古楽倶楽部の対象年齢は小学生以上となっていますが、基本的には小学校低学年の子供たちでもこなせるよう、体験内容の難易度を低学年向けに寄せています。そこで大人の方の参加が増えていることもあり、体験内容の難易度を上げた大人向けの体験学習も企画できればと考えています。また好古楽倶楽部の広報についてですが、「木簡づくり」や「博物館プラ板キーホルダーづくり」など体験内容がイメージしづらい学習は完成品の見本の写真を広報誌に掲載してもらうなど工夫して情報発信しましたが、それでも参加人数は低調でした。ただ実際に体験された参加者の反応は大変良く、内容自体は好意的に受け止められていると感じました。企画の面白さをいかに伝えるかが今後の広報の課題だと思っています。一方で「染色体験」「古墳の模型づくり」「土器づくり」などイメージしやすい企画は定員枠が早々に埋まり、申し込みをお断りすることも多々ありました。こういった需要の取りこぼしなども今後の課題だと思います。次に、小学校などでの出前授業についてですが、勾玉づくり、火おこし体験などを行う前に勾玉の意味や成り立ち、火おこしの歴史などをレクチャーするのですが、時間が限られていることもあり、作業の合間に行うこともあります。子供た

ちの中には作業に集中するあまりか、説明の内容を正しく理解していないことが事後のアンケートから見受けられることもあり、正しく伝える方策も課題と考えています。

◇　学校への出前授業についてですが、先に挙げた課題以外に学校からの意見で何か気付いた点はありますか。

◎　児童たちのアンケート結果も好評なのですが、先生からの反応も良く、子供たちに火おこしなどで成功体験を積ませてあげることができたなど、好意的な意見が多く得られました。

◇　出前授業のメニューにはどのようなものがありますか。

◎　先に挙げた「勾玉づくり」、「火おこし体験」のほかに要望があれば徳島の歴史を考古資料から解説するというパワーポイントを使っての座学も行っています。また須恵器、石器などの安定した資料を学校に持ち込み、実物に触れながら解説するなども行っています。

◇　出前授業の時間はどのくらいですか。

◎　基本的には学校授業の１コマ４５分間で解説から体験まで全て行います。２コマ使って授業を行うこともありますが稀です。１限目はＡクラス、２限目はＢクラスといった形で１回の出前授業で複数クラス行うことも多いです。

◇　夏季企画展「渋野丸山古墳大研究」についてですが、来館者のアンケートはどのようなものでしたか。

◎　今回の企画展では大きな１枚のパネルを“良い”“普通”“悪い”といった項目別の区画に割り、来館者には該当区画に丸シールを貼ってもらうといった方式で、また詳しい感想を書きたい人には別途感想ノートを用意して、そこへ書き込んでもらう形でアンケートを取りました。シール形式だと手軽に答えてもらえる利点があり、多くの人の反応を得ることができる反面、詳しい感想、特にネガティブな感想が得られることは稀なため、マイナス意見をどのように抽出するのかが課題です。一案として付箋に意見をメモ書きして貼ってもらうようにしましたが、反応は薄く今一つでした。

◇　今回の夏季企画展はどの年齢層をメインターゲットとして企画構成したのでしょうか。

◎　夏季企画展は夏休み期間中ということもあり、小中学生向けに構成しており、今回は特に自由研究にも活用してもらえるような形としました。実際、渋野丸山古墳を自由研究テーマとして相談に来る家族連れも目立ちました。

◇　小中学生対象の企画展とのことですが、今回の企画展のパンフレットを見ると「川西編年」などの専門用語が多く用いられ平易とは言えず、埴輪の解説文も一般の人には難しいように感じます。専門性を前面に出すのであれば、引用している論文等の正当性を担保するため、出典を明記する必要があるのですが、それがなされていないなどちぐはぐな印象を受けました。資料館としてどの層にアピールしたいのか、アンケート等を分析してニーズを把握、効率的な企画運営が必要ではないでしょうか。

◇　博物館の在り方として委員の意見はとてもよく分かるのですが、私も学校で学生を教えている関係で、理解の幅がある層を対象に教える難しさもよく分かります。ただ資料館での企画は全体としてはバランスが取れているとも思います。企画展は比較的硬質なものが多いように感じますが、月１回の好古楽倶楽部などの子供向けの体験学習の多様さや１つの展示遺物をテーマにした資料解説会を開くなど、他の博物館では見られない活動を頻繁に行っており、これらで均衡をとっているように感じます。また最近の企画展のトレンドとして遺物などのキャプションを大人向けと子供向けの２つ用意して要所に掲示したり、東京国立博物館では通常のキャプションの上に博物館的にココだけは押

さえて欲しいポイントを絞った数行のコメントを載せたりしています。来館者の多い博物館なのでキャプションの前で人の渋滞が起きるのを避けたいとの運営的な狙いがあるのかもしれませんが、そういった事例も参考になると思います。また近代博物館では通常の企画展パンフレットに加え、子供向けの平易なパンフレットをコピー刷りで配布しているそうです。限られたマンパワーの中でそこまでは難しいでしょうが、学習施設としてできる範囲で考えていただければと思います。

◇　以前にも同様の話をしたと思いますが、渋野丸山古墳をテーマに展示を行うのであれば同時期の他の古墳の資料も並べていただければと思います。他の古墳の遺物を並べることで比較ができ、渋野丸山の独自性や共通性などの特徴を見て取ることができ、より深みのある展示になると思います。

◎　指摘いただいた点については反省して今後の企画立案に生かしたいと思います。ただ、企画構成のために必要な参考文献が資料館には全く無いため、近畿の大きな図書館や研究施設に行く必要があり、企画に最新の研究を反映させるためには何度も遠地と往復しなければならず、また資料閲覧のための煩雑な手続きなどの時間的なロスも多く、ほかにも多大な資料検証や評価が必要な調査研究も並行作業で行うなど、最近の仕事量は自身の仕事に対するキャパシティを超えていて、正直なところ企画を現状以上に膨らますのが難しかったのが実情ではあります。

◇　県立図書館には置いていない図書資料でも県内の研究機関であれば所蔵していることもあり、そちらで閲覧できるのではないでしょうか。

◎　以前お願いしたことがあるのですが部外者の立ち入りは断っているとのことでした。自分の研究分野であれば自己投資として自身で購入していますが、考古全般を扱う資料館だと専門外のテーマの取り扱いも多く、そこまでは手が回らないのが実情です。

◇　調査研究を行ううえで資料館の大きな欠点として、書庫を有しない点が挙げられると思います。図書資料などで協力できる面があれば、力添えできればと思います。

◇　小学校の社会科見学で、以前は生徒を連れて資料館での勾玉づくりや火おこし体験など体験学習を受けさせていただいたのですが、最近になって教育課程の変更で古代の取り扱いが大幅に縮小されたため、時間的な制約で資料館を訪れるのが難しくなっています。活動報告にありました出前授業は時間的な制約をある程度は解消できるため、限られたカリキュラムですが取り入れることができればと考えます。ただ、こういった取り組みも教員間で周知されていないのが現状ですので、資料館の教育普及活動の広報にもより工夫していただければと感じます。また、話は変わりますが、国府近辺には古く由緒のある史跡が多く、近年はそういった神社や旧跡などに県外からも多くの人々が訪れているそうです。県外やインバウンド客の来訪が増えているこの機会に歴史のある国府の概要を示せる文化施設として広報していただければと思います。

◇　会議前に時間があったので展示室を見せてもらったのですが、児童が見て関心を寄せるにはハードルが高いように感じました。文化的価値や意味合いに関心を向けることができれば、実物が展示してあるので、食いつき自体は決して悪くないと思います。小学校の図書室での話になるのですが、児童の利用が少なく、また新刊を並べてもどれを選べばよいか分からないとの意見があり、本の帯に概要を載せたり、イラストやポップなどでジャンルを分かりやすいように示したりと工夫しているのですが、そういった具合に関心の導入口を子供向けにも設定していただければと考えます。また中学１年生の生徒ですが夏休みに家族で土器づくりに参加して、「とても良かった。また体験してみたい。」と言っていました。ほかにも小学生で勾玉づくりに参加し持ち帰った勾玉を宝物

にしたりとその子たちの思い出となることで考古学の関心を抱くきっかけになったり、将来の進路に影響を与えることになるかもしれません。そういった意味でも体験学習など考古学への間口を広げる活動は意義深いと考えます。また中学１年生の歴史の授業の初め、導入期に教材用のレプリカの土器を実際に生徒たちに見て触れてもらうのですが、印象に残っているそうです。実物を見るのが一番であるとは思うものの、先史の授業は４～５月の慌ただしい時期に当たり、生徒たちを連れて見学に訪れるのは難しいのが現状です。

◇　私が所属している社会活動の団体についてですが、少子高齢化の波が団体にも及んでいます。執行部も高齢化が進み、新たな人材の登用を考えていますが、成り手がなかなかいません。そこで資料館で行っている「おさんぽ考古学」などのレクリエーション的体験に参加することで候補の方々とおしゃべりをしながら歩き、共に学ぶコミットの場に利用させてもらえればと考えています。本来の趣旨とは異なるのかもしれませんが、とりあえずたくさんの方が資料館イベントに参加することが何よりだと思います。